

No.	発言のポイント	要旨
1	幼少期や義務教育から社会参加意識を高めるべき	幼少時や義務教育から社会参加意識を高めることで、進学意欲や県内就労、男女共同参画意識などを高めていくべき。学校支援ボランティアや高齢者の生きがい対策、児童クラブなどの連動によっても、意識を高めることはできると考える。
2	学校・家庭・地域を結ぶ人の充実を	連携教育力という点では、学校・家庭・地域が協力し合っていることはよく聞かすが、3者を結ぶ人が重要だ。コーディネーター、スクールソーシャルワーカーやカウンセラーといった人材がもっと必要ではないか。また、その人たちのレベルアップも欠かせない。
3	家庭で親子で一緒に勉強する時間を	学力の低さに驚いている。自立して家庭を持つ、社会に出るためには基礎学力が大切だ。学校では落伍者を出さない教育を徹底していただくこと、家庭では親が子どもと一緒に勉強する時間を取るという意識を持つことが重要だ。また、地域の親子クラブや児童クラブに参加して、子どものしつけなどを一緒に考える機会を増やすことも必要だ。
4	岡山型一貫教育の強力な推進を	「いきいき学校園づくり」や「地域協働学校」による、岡山型一貫教育を強力に推進してもらいたい。
5	岡山で暮らしたい、岡山で教育をさせたいという戦略づくりを	若者を呼び込むために、能力アップ岡山とかで、10年で学力は全国平均以上に、暴力やいじめは半減にというキャンペーンを張り、その成果を見せることで、岡山で暮らしたいとか、岡山で教育をさせたいという戦略ができないか。それを行う時には、幼少時からのエビデンスに基づいた継続的な脳を鍛える教育を採り入れることも重要だ。
6	教育と企業の情報交換を	企業経営者がどれだけ教育などの問題に関わるかが重要だ。私自身、県の教育委員になって、学校の課題と経済の問題のつながりが見えてきた。教育現場と経済界が積極的に情報交換を行い、互いの課題や社会全体の現状を理解する。そして、教育をサポートするために、経済界や企業が何をしなければならないかを考えることが必要だ。
7	家庭の教育費削減のため、NPO法人等による学習支援の場の設置を	子どもの教育のために働く、住むところを決める、時間を費やすといった話を聞く。家庭の教育費削減の施策ができないか。学習支援のNPO法人や元教職者などが、子どもの勉強を見てあげるといった取組をしているところが市内にもある。そうした私塾をみんなでつくっていったらどうか。
8	不利な条件の保護者へのきめ細かな支援を	教育の問題は経済の問題でもある。わが国の相対的な貧困率は16.3パーセントで、子どもの6人に1人が貧困状態にある。遊びや教育、医療にお金を回す余裕がない家庭が増え、特に母子家庭に被さってきている。子どもを持つ女性が一人で生活すると、いくつもの不利を同時に抱えることになる。そうした保護者に対する、きめ細かなケアを図ってもらいたい。子どもに対する施策は将来への投資であり、対策が必要だ。
9	授業を核に校内研修の充実を	貧困家庭を抱えている学校の中にも、学力向上に効果をあげているところがある。きめ細かな学習指導をしており、それができるための実践的な行内研修が充実している。そして、小中連関にしっかり取り組み、子どもの情報を義務教育の中で共有しながらつないでいる。結局、授業を核にした校内研修の充実が重要だということになる。

No.	発言のポイント	要旨
10	学校を開き、若い人財を地域で活用することが、教員として必要な力を育むことにつながる	岡山市の良さは堅実さにある。私が大切にしたいことは教育だ。「若い未熟な教員の授業力の向上」、「どのように教えるかという学習指導の習得」の二点が、教育における次代の大きな課題となる。その課題に学校内だけで対応するには限界がある。学校を開き、若い人財を地域で活用することが、教員として必要な力を育むことにつながるはずだ。
11	授業力の向上を	学校の組織的な実践力を高めるには、授業改善が何より必要だ。全国学力学習状況調査で、5ポイント、10ポイント低い項目は、教科の専門家は子どもの差ではなく、指導の差だと言う。そういうことを考えると、授業力の向上は待ったなしのところにある。
12	教育レベルの検証と改革を	根本的な教育の質もポイントだ。もっと真剣に、岡山市の教育レベルは低いのか、改善するところはないのかを検証してほしい。教育行政の抜本的な変革を図るために外部の人材を登用して、教育の改革を進めていくことを希望する。
13	先生に自由とゆとりを	次の学習指導要領等の改定を考えたときに、若い先生の授業力向上支援が待ったなしの状況にある。先生方に自由とゆとりをつくる必要がある。現在動いているものを減らす、止める、捨てることを本気で実行することだ。
14	教員の地位向上を	岡山県は学力低下、不登校、いじめと、3悪どころか4悪、5悪も揃っている県だと聞いたことがある。教員の給与が非常に低く、全国でも下位だ。教育者としてのプライドを持って子どもたちを教えられるように、教員の地位向上を図ってもらいたい。
15	グローバル人材の育成を	グローバルな人材を育成しても岡山の担い手にはならない。グローバルな視野で考え、ローカルな視点で行動できる、グローバルな人材の育成を目標にすべき。英語とITスキルの教育、違いを受け入れる心の教育を小学校や幼い時から行うことが必要だ。
16	子どもたちが身近な文化施設・歴史遺産に触れる機会づくりを	故郷愛、郷土愛をどう育てていくか。これは大きなテーマだ。岡山市は政令市の中で、国の史跡が京都市に次いで2番目に多く、18カ所もある。このことを市民のどれだけの方が認知しているのか。歴史遺産は全国あるいは海外に誇れるものがたくさんある。市民が改めてその価値を再認識して誇りを持つべきだ。また、子どもたちが身近な文化施設・歴史遺産に触れる機会をつくっていくことが重要だ。同時に海外も含めて、その価値を分かりやすく発信していく。そのあたりの取り組みをぜひ進めていただきたい。
17	郷土の先人の理解を	郷土の先人の業績に理解を深めることが必要だ。先人の生き方を学びつつ、道德などの教育にも生かせるのではないかな。
18	義務教育で「岡山市学」を	義務教育の段階で「岡山市学」を学ばせ、将来、他の地域に行った時、岡山のうんちくが語れるようにする。学力的なわずかの差より、そのほうが意味があるのではないかな。博物館や史跡や施設を訪問し、学芸員の話聞く。そういうことをどんどんさせたらいいのではないかな。入場者も増えるし、子どもたちも学ぶことが多いはずだ。
19	岡山の自然や歴史に興味を持つ子どもを育てていくための教育を	岡山のブランド力が全国で41位から27位に大きく改善された。しかし、後楽園、岡山城、吉備津神社など、多くの歴史・文化資源があることを考えると、やはりまだPRが不足しているのではないかな。もっとPRをすることが必要だ。また、岡山の自然や歴史に興味を持つ子どもを育てていくための教育が必要だ。

No.	発言のポイント	要旨
20	インターネット社会の功罪、端末の使い方を学校で教えるべき	インターネット社会が子どもに与える影響は大きい。端末の使い方やネット社会の功罪などは、学校の授業に取り入れていくべきだ。
21	生涯にわたって学べる環境を	歴史・文化・芸術・スポーツを生涯にわたって学べる環境づくりが重要だ。公民館や生涯学習センターなど学べる場所はかなりあるので、連携講座を増やして、学んだ人が各地域で活躍できる仕組みがつけられたらいい。